科目名	薬理学・臨床検査【理学・作業】	開講キャンパス	神埼
担当者	寺本憲功		

開講年次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選択必修

授業の概要及びねらい	理学療法および作業療法を受けている患者様は、それと同時に薬物療法を受けているケースがたいへんに多いです。本授業では医療現場で実際に広く用いられている「くすり」（薬物・薬剤）の効果やその働きについてわかりやすく概説し、病態と関連付けながら「くすり」（薬物・薬剤）の基礎的な知識を得ることを目的とします。
授業の到達目標	「くすり」とはどういうものなのか？、どのように作用するのか？　について定義することができる。 様々な疾患の病態を理解し、各々の疾患に対する「くすり」の名称、作用機序、特徴について説明できる。 「くすり」の主な作用のみならず、その副作用についても説明できる。 医療現場で患者が服用している「くすり」を正しく理解し、理学療法および作業療法へ役立てることができる。
学習方法	指定したテキストの内容を概説しながら講義を進める。また配布プリントやパワーポント資料で講義内容を補足する。
テキスト及び参考書等	イラストでまなぶ薬理学　第２版　田中越郎　著　：　医学書院

評価基準・方法	到達目標				
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%
定期試験	◎	○	○		90
小テスト等					
宿題・授業外レポート					
授業態度					
受講者の発表					
授業への参加度			○		10
その他					
合計					100

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）

第 1 週	薬が作用するしくみ	（薬と受容体・血中濃度・投与方法）
第 2 週	自律神経	（交感神経作動薬、交感神経遮断薬、副交感神経作動薬、抗コリン薬、筋弛緩薬）
第 3 週	アレルギーと炎症	（副腎皮質ステロイド薬と非ステロイド系炎症薬、抗リウマチ薬、免疫抑制薬）
第 4 週	血液と輸液	（貧血、輸血、水分と電解質、輸液、中心静脈栄養法）
第 5 週	循環器	（降下薬、カルシウム拮抗薬、狭心症治療薬、心不全薬、抗不整脈薬、利尿薬）
第 6 週	呼吸器	（気管支喘息治療薬、去痰薬（きょたんやく）、鎮咳・感冒薬）
第 7 週	消化器	（消化性潰瘍治療薬、制吐薬、瀉下薬（しゃげやく）、止痢薬）
第 8 週	代謝	（糖尿病治療薬、痛風治療薬、高脂血症薬、骨粗鬆症薬）
第 9 週	内分泌	（性ホルモン薬）
第 10 週	中枢神経系	（パーキンソン病薬、抗不安薬、睡眠薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬）
第 11 週	麻酔	（麻酔性鎮痛薬、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、局所麻酔薬）
第 12 週	抗菌薬	（抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬、耐性菌、日和見感染）
第 13 週	抗癌薬	（代謝拮抗薬、DNA 複製阻害薬、微小管阻害薬、抗癌薬の副作用と投与法）
第 14 週	特殊な薬	（散瞳薬、縮瞳薬、緑内障治療薬、皮膚用薬、予防接種、漢方薬、消毒薬）
第 15 週	薬の処方と管理、与薬エラー	（処方箋、ジェネリック薬、与薬方法のエラー）
第 16 週	試験	

備考	将来、理学療法士・作業療法士になって　有用な「くすり」の知識を講義します。